



# AUE News

2011年1月15日

第 8 号



編集・発行

愛知教育大学広報部会

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500



## 目 次

● 行事予定(1月 16-31 日)

● トピックス

- ・天文台一般公開 60 回達成
- ・企業研究セミナー
- ・第 2 回大学スケッチ展
- ・大学入試センター試験

● お知らせ・報告・投稿

- ・北村准教授が産学官交流に参加
- ・台湾の協定校学長が本学訪問
- ・音楽科学生によるミュージカル
- ・林真智子さんアメリカ留学記②
- ・「第 1 回 One World Festival」開催
- ・小島雅生ブロンズ作品展開催
- ・木管アンサンブルが公演

## 行事予定(1月 16-31 日)

- 17 日(月) 安全衛生委員会 (16:40～ 第五会議室)
- 18 日(火) 役員会 (13:00～ 学長室)
- 19 日(水) 教授会 (13:30～ 第一会議室)
- 26 日(水) 経営協議会 (10:00～ KKRホテル名古屋)
- 27 日(木) グラウンド時計塔の完成披露会 (11:00～ グラウンド)

## トピックス

### 第 60 回天文台一般公開(1/8)

本学の天文台一般公開が 1 月 8 日(土)に開催された。今回が 60 回目の記念すべき公開で、事前に新聞で紹介されたこともあり、大盛況のうちに無事終了した。市民への公開を営々と続け、地域への貢献を果たしてきた澤武文教授(理科教育)に特別寄稿をお願いした。

\*

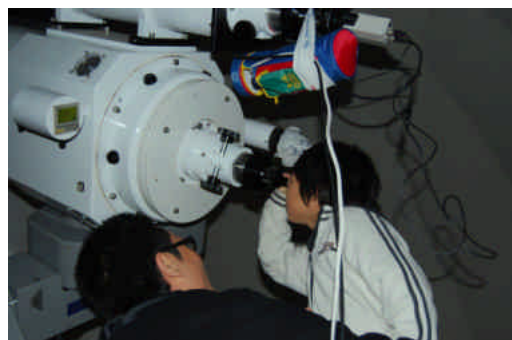
\*

「第 60 回天文台一般公開を終えて」



1 月 8 日午後 5 時から、愛知教育大学天文台第 60 回一般公開が予定されていた。今回が 60 回目の節目に当たるということで、その 2 日前の木曜日に、中日新聞記者が取材に訪れた。翌日 7 日(金)の朝刊県内版に、「宇宙への夢紡ぐ! 愛教大の天文台一般公開、8 日で 60 回目」という見出しでその記事が掲載されたが、それからが大変だった。

まず、電話での問い合わせである。通常、1, 2 件あるかないかであるが、金曜日、土曜日を合わせると 20 件以上あったと思う。こちらは講座の準備で忙しいのに、電話の対応をしなければならず、このときほど電話番号がほしいと思ったことはなかった。その次が、当日の午後 4 時半過ぎからである。当日は朝から快晴であったこともあり、参加者が次々と押し寄せ、講座が始まるまでに部屋は超満員となった。急遽、学生諸君に後方の机



を確保して、後方の机に座らせて観察させた。学生諸君は、とても興味を持って観察していた。天文台一般公開は、毎年恒例行事として、市民への公開を営々と続け、地域への貢献を果たしてきた。澤武文教授(理科教育)に特別寄稿をお願いした。

を外に出して椅子を並べ、通路も椅子で埋め尽くしてもらったが、それでも入れない方々の長蛇の列が廊下にてできてしまう状況だった。学生諸君がうまく対応してくれたため、スタートが少し遅れただけで、とにかく講座は無事スタートできた。

会場は 100 名以上の参加者で、超満員の状態であった。天文愛好会の有志が、講座に入れなかった方のために、予定を早めて隣の部屋でプラネタリウムを上映してくれた。しかし、1 度に見ることのできるのは 10～15 名程度であり、焼け石に水といった感じだったと思う。とにかく 6 時頃までに講座を終えたが、その方々が一度に観望会会場に行けば、またそちらで混乱することは明らかだったため、他の実験室を控え室とし、整理番号順にいくつかの班に分け、順次見てもらうことにした。また、最初に講座を聴けなかった参加者に、もう一度講座を行うことで、待ち時間を有効に使ってもらうことにした。講座のリピートは初めて。無事、2 度目の講座を終えても、まだ、最初の講座を聴いた方々の観望会が終わっておらず、もうしばらくそこで待機していただくことにした。その方々が屋上に向かったのは 8 時過ぎ、全ての方が観望を終えたのは 9 時過ぎだった。



観望会は、混雑が予想されたので、40 cm 望遠鏡に順番待ちの列ができるが、その列の途中途中で小型望遠鏡を配置し、月、木星、オリオン大星雲、すばるなどを、待ち時間に見ていただいた。これも学生諸君の協力があったことである。40 cm 望遠鏡では木星を見ていただいた。通常 2 本見える縞模様も、最近では 1 本しか見えない状態だったが、その縞模様を確認していただいた。寒い中、長い間待たされたのにも関わらず、見終わった後「ありがとうございました」と声をかけてくれた方が多かったのが救いだ。

そもそも、この一般公開は 10 年前の 2000 年、当時の澤研究室の大学院生の熱いトークからスタートしたものである。その後 10 年間、研究室の大学院生や学生が中心となって支えてくれたからこそ 60 回まで続けられた。特に、2003 年の火星大接近の時と今回は、300 名を超える参加者があり、学生諸君がうまく対応してくれたおかげで「大混乱」が起きずに済んだと思っている。これまで協力してくれた院生、学生諸君にこの場を借りて感謝の意を表したい。

私は、再雇用も含め、愛知教育大学での在籍はあと 4 年になってしまった。できれば、残りの 4 年間は年 10 回のペースで一般公開を実施し、最終的に 100 回を達成したいと思っている。迷惑かもしれないが、これからも澤研究室の大学院生、学生諸君にはぜひ協力していただきたい。

(澤武文)

### 企業研究セミナー(1/12, 13)

就職を希望する学部 3 年生と大学院 1 年生を対象にした「企業研究セミナー」が 1 月 12 日(水)、13 日(木)の午後 1 時～4 時、大学会館 2 階大集会室で開かれ、2 日間でこれまでに最多の 307 人が参加した。



同セミナーは、学生が企業の採用担当者から直接話を聞くことができる就職支援の催し。2001 年度から開催され、今年で 10 回目。会場には 40 のブースが設けられ、地元優良企業が両日で計 80 社出展、学生へ企業説明が行われた。

不況のために一般企業などへの大学生の就職が厳しさを増す中、今年は開催時期を昨年より約 1 カ月早めて実施。参加者数は昨年(203 人)の約 1.5 倍、2 日間開催(同 14, 15 年度は 3 日間、同 16 年度はデータなし)では最多記録となった。

学生たちはリクルートスーツで各ブースを訪ね、担当者から業務内容などの説明を受けた。中には3時間で5、6社を回り、積極的に質問する学生も見られた。

キャリア支援課の三浦孝史課長は「参加者増は雇用環境の厳しさを反映していた。また、本学では年間6回の就職ガイダンスを実施し、自己分析、企業研究、エントリーシートの書き方や面接のアドバイスをするなど就職希望者をサポートしている。今回のセミナーは初出展の企業もあり内容も充実した」と分析。さらに、「初参加の企業からは、愛教大へのイメージが変わったという声も寄せられた。今後もしっかりサポートしていきたい」と就職支援体制の充実への意気込みを語った。

## 第2回大学スケッチ展(1/13-2/18)



本学のキャンパスを描いた村瀬康司さんの「第2回大学スケッチ展」が附属図書館2階のアイ♥スペースで1月13日(木)に始まった。

昨年7~8月に次いで開催。村瀬さんは安城市在住で、40年ほど前から家業の傍ら描き続けている。同年1月に岡崎市の旧東海道でスケッチをしていたところ、散策中の松田正久学長と出会い、「ぜひ本学キャンパスを描いてほしい」という松田学長からの依頼で作品制作をすることになった。

今回は秋から冬にかけて手掛けた14作品を展示。「バス停」「講堂」などの風景と併せて、「神輿を担いだ子どもまつりの様子」「大学祭での模擬店」「理科実験プレ教員セミナー」など、学生たちのキャンパスライフを軽妙なタッチで生き生きと表現した作品もあり、来場者を楽しませている。

展示は2月18日(金)まで。入場無料。休館日は附属図書館ホームページを参照。

<http://www.auelib.aichi-edu.ac.jp/>

## 大学入試センター試験(1/15, 16)

大学入試センター試験が1月15日(土)、16日(日)に実施され、本学と附属高校が会場となり、受験生約2900人が試験に臨んだ。



試験室の第一共通棟などの45教室、附属高校の15室、計61室では、15日は公民、地理歴史、国語、外国語(筆記)、英語リスニング、16日は理科1、数学1、数学2、理科2、理科3の試験が行われ、教員と一部大学院生が監督を、事務系職員が答案整理や欠席者調べの回収など、それぞれ“総出”で業務にあたった。

毎年この時期は降雪などが心配されるが、15日は晴れ、16日は1教科目の試験開始後に雪が降り出し、交通機関も正常に機能して受験生への影響はほとんどなかった。試験については、英語リスニングで機械の不具合による再開テストが2人あった以外は、概ね予定どおりに実施された。

## お知らせ・報告・投稿

### 北村准教授が産学官交流に参加(報告)



本学の北村一浩准教授(技術教育)が昨年12月8日(水)、大府市役所ホールで開催された「第4回産学官交流会」に参加、愛知教育大学ブースを出展し、このほど写真、関係新聞記事を広報室に提供してくれた。会は産学官連携により医療や福祉分野での新産業を育成するのが目的。

北村准教授や記事などによると、会には14大学、市内4企業、介護医療関連機関など計31団体がブースを出展

し、200 人余が参加する盛況ぶり。本学のブースでは大学紹介パンフレットの展示、配布や技術教育で行われているものづくり教室の紹介に加えて、准教授が発明者で企業と商品化した形状記憶合金を用いた作業補助具を紹介、説明に聞き入る入場者の姿が目立ったという。

### 台湾協定校学長ら来学(投稿)

2010 年 12 月 15 日(水)、本学の学術交流協定校である台湾・彰化師範大学から、張恵博学長はじめ 4 人が本学を訪問した。彰化師範大学は、約 7700 人の学生と 370 人の教員、7 つの学部並びに大学院(修士・博士課程)を有する、台湾でも有数の教育大学であり、本学とは 2004 年に学術交流協定を締結、交流担当教員の協力の下、研究者交流や学生交流をはじめ、活発な学術交流活動が続けられている。



張学長らの本学到着後、村松常司国際交流センター長主催の昼食会が催され、それに続き、学長室で懇談会が行われた。懇談会には、松田正久学長、村松センター長をはじめ、交流担当教員である宮川秀俊教授(技術教育)、清水秀己教授(技術教育)、彰化師範大学から本学へ留学中の学生 2 人も出席し、今後の交流の方向性などについて活発な意見が交わされた。また、日台における教員養成の制度的発展や教員養成大学の現状、日本の国立大学法人化や大学生の

就職問題などにも話題が及び、両国の高等教育についての貴重な情報交換の場となった。

2011 年 1 月 20 日から、松田学長はじめ 4 人が彰化師範大学を訪問する予定であり、今後の両大学の交流促進に向け、さらなる協力関係の構築が期待される。

(教育創造開発機構運営課 宮内春菜)

### 音楽科有志がミュージカル上演(報告)

音楽科 2 年の学生が中心になって組織した「d o r e m i (ドレミ)」が、ミュージカル「The Sound of Music」を 2010 年 12 月 26 日(日)、愛知県長久手町の「長久手文化の家 森のホール」で上演した。

d o r e m i は、昨年度の音楽科 2 年の有志によるミュージカル「シンデレラ」を見て感激した学生たちが「自分たちもぜひ挑戦したい」と結成したサークル。学外の参加者も合わせて約 30 人のメンバーが集まり、12 月の上演を目指して春から準備を進めてきた。

演目はアカデミー賞に輝いた名画「ザ・サウンド・オブ・ミュージック」。オリジナルのミュージカル同様に歌と踊り、演技、演奏の練習を積み重ね、衣装や道具作りもメンバーで制作。当日は客席もほぼ満員となり、「ド・レ・ミの歌」「エーデルワイス」などの名曲ナンバーを伸びやかに歌い上げ、それぞれの役になりきった舞台を披露して、観客から喝采を浴びた。



### 林真智子さんアメリカ留学記②(投稿)

こちらへ来て 4 カ月が経ちました。私の留学期間は 9 カ月なので、もうすぐ折り返しです。ここまで本当にあっという間でしたが、振り返ってみると「勉強」「友達」「文化経験」のぎっしりつまった 4 カ月でした。



ボールステイト大学はアメリカ・インディアナ州にあり、五大湖の少し南に位置するため、冬は愛知と比較してかなり寒いです。原稿を書いている今日も最高マイナス 8℃、最低マイナス 14℃といった具合で、シャワーをして濡れた髪のまま外に出ると、髪が凍ってしまうほどです。雪は、サラサラのパウダースノーで、踏みしめるとキュッキュッと音がして、雪玉を作ろうと思っても崩れてしまいます。幸い、建物は二重扉で窓が少なく、暖房もしっかりきいているので、屋内では快適に過ごすことができます。寮の部屋も 28℃前後と温かいので、毛

布もいらず、布団一枚で寝ています。

私は来学期に受ける学部授業の準備として、今学期は英語コースを受講しました。授業にもだいぶ慣れ、聞いて理解することには最初ほど苦労しなくなりました。しかし、自分の言いたいことを的確に言ったり書いたりすることはとても難しく、いつももどかしさを感じます。また、授業中に、日本人らしく場の空気を第一に考えていると発言するタイミングを失ってしまいます。誰かが意見を言い終わってからタイミングを見計らって手を挙げようとしているといつまでも発言できません。周りの学生がどんどん手を挙げるからです。そのため、発言・質問したいときは、まず手を挙げておいて、指名されるのを待つといった感じです。最近気付いたことですが、授業では、自分の意見を持つことを求められ、自分の意見とその理由を説明できることが大切とされているように感じます。答えはいつも一つではなく、自分の意見が模範解答と違ったとしても、説得力のある説明ができれば、自分の意見を尊重してもらえるように思います。宿題の量がとても多く、図書館に夜中の 2 時や 3 時までこもることも少なくありませんでしたが、文献の読み方、ペーパーの書き方など学部授業についていくための基礎を学ぶことができました。



また、私は英語コースの他に、自分の専攻である Special Education の授業を聴講させてもらっていて、毎週欠かさず出席しました。授業の理解度は回を追うごとに増していきましたが、英語コースと違ってこのクラスでは私が唯一の留学生だったので、グループワークや先生への質問はどうしても気後れしてしまいました。来学期は学部の授業をとることになるので、英語コースのときのように、もっと積極的に発言したり質問したりすることが私の目標です。

英語コースでは、10 カ国以上からの留学生と出会い、多くの文化や宗教に触れることができました。また、留学生やアメリカ人の友達とパーティにでかけたり、日本食を作って彼らを招いたり、州都のインディアナポリスや、隣の州であるケンタッキーやオハイオに旅行したりと、週末は思いっきり楽しみました。ハロウィンにはカボチャを彫ったり、Thanksgiving という祝日には、アメリカ人の友達の実家に泊めてもらい、七面鳥を食べたりと、アメリカの文化にも触れました。



ボールステイト大学には多くの国からの留学生がいるため、10 月の半ばのインターナショナルフェスティバルはとても盛り上がりました。私は浴衣を着て参加しました。日本紹介のブースでは、来場者の名前を書道で書いたり、来場者の質問に答えたりしました。11



月の半ばには、ハーベストフェスタという外国語学部主催の

イベントがあり、これにも浴衣を着て参加しました。ここでは、私は日本で習った茶道のデモンストレーションをしました。剣道の紹介をした日本人留学生もいて、日本の文化を外国語学部の先生方・アメリカ人学生・各国からの留学生に紹介する良い機会となりました。

1月からは春学期が始まります。私は特別支援教育、教育心理学、子どもの発達などの授業を受ける予定で、今からとても楽しみです。

(障害児教育4年 Ball State University 交換留学生 林真智子)

### 小島雅生ブロンズ作品展開催(お知らせ)

刈谷駅前商店街のスペースAquaふれあい広場でブロンズ作品の個展「小島雅生展ーブロンズの呼吸ー」が1月21日(金)~30日(日)に開催される。

小島さんは造形作家で、磐田市新造形創造館講師。刈谷高校、愛知教育大学を卒業。

展覧会ではロウ型石膏鑄造によるブロンズを中心とした造形作品を展示。時間は午前10時~午後5時。入場無料。

また、30日午後2時~4時にはワークショップ「銅板のいぶしレリーフづくり」を開催。薄い銅版に模様を施し、薬品でいぶすことで、長い時間を経たような作品ができる。講師は小島さん。対象は小学生以上(低学年は保護者同伴)。参加料400円。申込みは24日まで。問い合わせはTEL0566(23)2488へ。

### 「第1回One World Festival」開催(お知らせ)



本学の学生主体で企画・運営する国際イベント「One World Festival」が1月22日(土)午前9時~午後6時に大学会館で開催される。

主催はOne World Festival実行委員会。テーマは「始~Start~」。ステージでは、留学生による日本語でのスピーチコンテストをはじめ、チャリティコンサート、伝統的衣装のファッションショー、抽選会などを、ブースでは「世界における人生の様々なStartを体験できるブース」、メッセージツリー、記念撮影コーナー、フェアトレードグッズの販売、人形劇などを予定している。

入場無料。

### 木管アンサンブルが公演(お知らせ)

本学音楽科の教授と学生による木管アンサンブルグループ「ムジカ・アイリス」が1月23日(日)、岡崎市六供町の甲山会館での「NEW YEAR わくわくフレッシュコンサート」に出演する。

同コンサートは岡崎パブリックサービスが主催、岡崎市・岡崎市教育委員会が後援。ムジカ・アイリスは主催者の要請を受けて出演することになった。

ムジカ・アイリスは、新山王政和教授(音楽教育)の研究室ゼミ生有志によって1995年に発足した木管楽器を中心としたアンサンブルグループ。現在は所属学生、大学院生が県内の小中学校に出掛けて演奏をするスクールコンサートの活動を中心に行っている。

今回はフルート、オーボエ、クラリネット、ホルン、マリimba、ファゴット、ピアノの7人のメンバーが出演。曲目は、日本の四季の曲メドレーとして「お正月」「たき火」「早春賦」などお馴染みの唱歌を披露する。また、第2部では、岡崎市出身のバイオリニスト鈴木絢さんによる演奏もある。



時間は午後 1 時 30 分から。入場料は前売り大人 800 円（当日 1000 円）・中学生以下は無料。  
チケットは岡崎市民会館，せきれいホール，竜美丘会館で販売中。

問い合わせは，岡崎市民会館 Tel0564 (21) 9121 へ。

### 編集後記

大学入試センター試験の業務に初めて携わりました。受験生にとっては人生を左右するかも知れない大事な試験とあって，教職員も正確に，かつ円滑に進むようにと神経を使って業務にあたりました。試験本部は“戦闘態勢”。特に入試課職員にとっては，本学入試同様，まさに 1 年で最も忙しく，緊迫する瞬間。そんな緊張した空気が学内に広がっていました。試験 2 日目の試験開始直後は大雪でキャンパスは真っ白。厳しい寒さの中で，受験生とともに大学も“闘って”いるのだな，と実感した次第です。（K）

### 投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール：[kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp](mailto:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp) 編集責任者：総務担当理事 折出 健二